天理大学雅楽部

昭和 26 年（1951）、雅楽の研究、演奏技術の習得並びに普及を目的として、課外活動の一クラブとして創部。毎年、天理と東京において定期公演を行い、また各地でも演奏を行っている。海外公演も、昭和 50 年（1975）の韓国・香港・台湾での公演を皮切りに、アジア、アメリカ大陸、ヨーロッパなど、これまでに 30 回、延べ 60 か国で行ってきた。

これまでの雅楽部の大きな活動としては、昭和 55 年（1980）、東大寺昭和大修理落慶法要に際し、NHK の委託により、幻の天平芸能といわれている伎楽の復元演奏をつとめた。以後、毎年一曲ずつ復元を重ね、平成 4 年（1992）に文献に現れている伎楽曲を一通り完成させた。同年、薬師寺の依頼により、新伎楽「三蔵法師」を演じ、平成 8 年に全 5 作の完成をみており、平成 13 年（2001）には総集編ができた。

このほか、吹奏楽や現代邦楽、ジャズ、前衛舞踏との共演、催馬楽や舞楽等の廃絶した曲や舞の復元試作演奏にも取り組んでいる。昭和 59 年（1984）には、CBS ソニーより雅楽部初のレコードがリリースされ、のちに CD となって発売された。

道友社より「雅楽―奏楽練習のために」と題して、平成 12 年（2000）には盤渉調と黄鐘調を、平成 14 年（2002）には壱越調と双調、太食調に続いて平調、平調Ⅱ、双調Ⅱ、平成 20 年（2008）には壱越調Ⅱの計 9 枚の CD が出され、好評を博している。

平成 12 年 12 月、学校教育現場における雅楽の普及活動が評価され、国際ソロプチミスト奈良―まほろば―のシグマソサエティ会員に認証され、平成 13 年（2001）にはポーラ伝統文化財団より第 21 回伝統文化ポーラ地域賞を受賞した。